

放送大学学長選考会議（第10回）議事概要

〔日 時〕 平成29年3月22日（水） 10時30分～12時00分

〔場 所〕 放送大学東京文京学習センター2階「講義室2」

〔委員総数〕 10名

〔出席委員〕 8名

- ・出席 8名 室伏きみ子〔議長〕、岡野達雄〔議長代理〕、
浦野光人、奥 英之、小野けい子、來生 新、永山賀久、
三輪眞木子の各委員
- ・欠席 2名 安部恵美子、安齋尚志の各委員

〔事務局：事務局長、総務部長、総務課長他〕

1. 開 会

- 総務課長から出席状況を報告し、定足数を充足していることの確認を行った。
- 委員の交代について、議長から説明があった。
石野委員から、平成29年1月11日付けで委員を辞任したい旨の申し出があったため、委員の選出機関である理事会（1月6日開催）において、後任として、永山賀久放送大学理事が選任されたことについて説明があった。その後、永山理事から就任の挨拶があった。
- 1月11日に開催した第9回学長選考会議の議事概要について確認を行った。

2. 議 事

（1）審議事項

① 学長の業務執行状況の確認について

- 総務部長から〔机上配付資料（学長選考会議関係資料集）〕及び〔資料2〕に基づき、学長の業務執行状況の確認方法等について説明があった。
- 議長から、岡部洋一学長を案内するよう発言があった。

〔岡部洋一学長 着席〕

- 岡部学長から〔机上配付資料〕に基づき、これまでの業務の執行状況について説明があった。
- 続いて、各委員から、岡部学長に対して質疑が行われた。要旨は以下のとおり。
 - ・ オンライン授業の今後の進め方について質問があり、平成29年度からのオンライ

ン教育センターの設置や、就業学生向けの経営・産業などの科目の強化について進める旨回答があった。

- ・ 社会のニーズがどういう形で抽出され、実際に放送大学でカリキュラム化するものなのかについて質問があり、1つは学生のアンケート結果が挙げられるが、その他様々な面を組み合わせで決定される旨の回答があった。
- ・ 大学のネット広報の取り組みについて質問があり、今後も工夫しながら引き続き取り組んでいく旨の回答があった。
- ・ オンライン授業の今後の課題について質問があり、インターネット化や学生の確保についての問題等について回答があった。
- ・ 資格系や実務系科目の充実について質問があり、授業料や他の科目との兼ね合いなど今後の取り組みの検討について回答があった。
- ・ オンライン化が進むなかで、学習センターが持っている課題について質問があり、放送授業の補填的科目をオンラインで行い、地方の特色があるなど効果的な科目についてはセンターで行うなど、今後の課題等について回答があった。
- ・ 厳しい財務状況への今後の対応について質問があり、テレビ科目の厳選等今後の取り組みについて回答があった。

- その後、白井理事長から挨拶があった。

〔白井克彦理事長、岡部洋一学長 退席〕

- 総務部長から〔資料3〕に基づき、学長の業務執行状況の確認結果の通知方法について説明があった。
- 議長から、〔机上配付資料〕に基づき、理事長に通知すべき内容のうち、確認結果のとりまとめ方法について提案があり、議長が用意した原案をベースとして、学長に対する面接の結果等を踏まえ、業務執行状況の確認結果について審議を行うこととされた。審議の結果、業務執行状況の確認結果は以下のとおりとりまとめることが、全会一致で決定された。

(1) 総括

岡部学長は、再任後の2年間において、下記の主要4課題に着実に取り組んで来た。その中で、放送大学に対する新たなニーズと改革の方向性を明確に示し、実行に移して来たことを、高く評価する。

○社会のニーズに合った教育の再構築・体系化の進捗状況

岡部学長は、社会のニーズを的確に捉え、教養学部の科目群の基盤を整備・充実し、カリキュラム改革を確実に実行して来た。さらに、放送大学の学部生の教育を充実・向上させるために、2016年4月からの「日本語リテラシー」の開講やリメディアル教育の強化に努めている。

また、大学院博士後期課程を整備するとともに、修士課程や学部教育の見直しを行い、体系的な「教育の基本方針」として決定した。

以上の実績を高く評価する。

○放送大学の特性を活かしながらICTを活用した教育手法の導入の状況

かねてから学長が率先して行ってきたテレビ・ラジオ放送授業科目のインターネット配信をほぼ完成させた。

オンライン授業については、学長がリーダーシップを発揮することによって、教員を含む新たな制作体制を構築し、学習者の利便性を高めた双方向性を有する授業科目を設計・実施して来た。特に、オンライン授業の本格実施に向けて、オンライン授業準備室と教育支援センターを改組し、オンライン教育センターを新たに設置したことは、高く評価される成果である。2017年度には13科目が開講予定であり、引き続きオンライン授業の充実を図ることによって、放送大学の新しい方向性を切り拓く道筋をつけたと言える。

また、ソーシャルネットワークなどを活用して、教員・学生間のコミュニケーションの活性化に学長が率先して取り組んで、成果を挙げてきた。

○教員の能力開発を主眼とした目標設定・評価制度の導入の状況

学長のリーダーシップのもと、新たな教員の能力向上のための目標設定・評価制度を設計し、学内のコンセンサスを得て、2016年度より導入・実施した。放送大学の特色に十分に配慮して構築された新たな制度は、今後、教員の能力開発の促進に役立つものとして、大いに期待がもたれる。

○本学の厳しい財務状況への対処の状況

厳しい財政状況を教職員と共有化することに努め、積極的な取り組みを行ったことを評価する。

とりわけ、オンライン化の実施によって科目数を増加させることで、資格系や実務系科目の充実を可能にした。それによって学生数の増加が期待できよう。同時に、オンライン化は制作経費の軽減につながり、財政状況の改善にも寄与すると考えられる。

② 次回の日程について

- 議長から、次回の学長選考会議日程について説明があり、来年の3月頃に來生新学長の業務執行状況の確認を議題として開催を予定しているとの説明があった。

(以 上)